



AYUMINOKAI

医療と福祉を考える情報交換会

# 歩みの会通信

発行日  
令和3年5月5日

第2号

歩みの会事務局 藤沢市辻堂太平台1-3-1 坂本眼科湘南クリニック内 発行人 会長 坂本 則 敏

## 座右の銘は“お人は宝”

名誉顧問 「湘風舎」代表取締役 泉 信子さん

今年で満97歳。藤沢の団体や交流会にも積極的に参加されています。

皆さま、湘南エリアのイベントや美しい風景写真、歴史、エッセイなどが紹介されている『湘南百撰』をご存知でしょうか。藤沢の出版社「湘風舎」より発行されている情報タウン誌ですが、こちらの制作に携わり、読者の皆様にお届けしているのが、今年10月に満97歳となられる泉信子さんです。

泉さんは北海道出身。その後、浜松に移り、「小泉」という割烹旅館（北鎌倉の設計事務所叶家・田中青滋氏設計）の商いで成功し、地元のお客さまをはじめ、日本の政界・財界、名士が次々と訪れました。

「当時は、東京～大阪間は移動に時間がかかりましたが、浜松はちょうど中間地点だったのです」（泉さん）

藤沢に移り住むきっかけとなったのは、鶴沼に別荘を構える自動車メーカー「本田技研工業株」の創始者・本田宗一郎さんの教えによるものだそう。

「“もう料亭の時代ではない。これから大きく発展する藤沢に店を出すといい”とアドバイスを受け、さっそく藤沢の街をリサーチしました」（泉さん）

その後、藤沢駅周辺にサンドイッチ店「飛行船」、やきとり・釜飯の店「鳥っこ」、庭園喫茶など複数の飲食店を出店し、大繁盛させました。

タウン誌の発行について何うと、「遠藤周作さんの“もっと本を読みなさい。本を読まないとだめですよ”という言葉が私を後押ししました。もともと本好きでしたし、銀座の情報タウン誌『銀座百点』への憧れが強かったことから、自分でも作りたい！と、1972年、藤沢の情報タウン誌『藤沢風物』を創刊しました。それもこれも地元の方々のご協力のおかげでございます」とのこと。

『湘南物語』（1996年～）、『湘南百撰』（2009年～）と変遷を経ながら、約半世紀の間、発行を続けていますが、これらの冊子は、湘南台にある「藤沢市総合市民図書館」に、今も拝覧することができます。なんと、創刊号には里見弴先生のご貴稿が掲載されています。

「これからも元気な限り、続けてまいりますので、今後とも御教示よろしくお願い申し上げます」（泉さん）

### DATA

〈湘南百撰〉

情報タウン誌「湘南百撰」を年4回季刊発行

藤沢、茅ヶ崎、鎌倉、小田原、箱根の情報を紹介

〈湘風舎〉

神奈川県藤沢市鶴沼藤が谷1-10-6

TEL. 0466-26-9991 FAX. 0466-26-9992



当会より車椅子を寄付（写真は2017年8月）  
中央が泉信子名誉顧問





# 愛と知恵を持って



横井 容子

《みんなの郷》で施設長をしている横井容子です。

みんなの郷は、皆で楽しく健康長寿をモットーとして、横井が二年半前に築いたサ高住です。彼の遺志を引き継いでドチをしながらも、素晴らしいスタッフやシニアそして皆様（歩みの会の方々にも）支えられ、何とか頑張っております。

賄い、掃除、買い出し、事務処理など試行錯誤の連続です。そんな不慣れで落ち込むことがよくある中に、さらにコロナにより泣きっ面にハチ状況になりました。

- 会話を愉しんでいた食事 → モクモク食べる黙食
- 日中の買い出し → 夜明け前の買い出し
- ご家族など外部の方との触れあい → ご遠慮くださいの張り紙
- 楽しいレクリエーション → マスク着用で静かに



など、事態が一転しました。

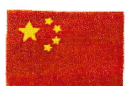
そんなコロナ禍において、自助・共助・公助について改めて考えさせられました。まず、手洗いやうがい、マスクの着用など各自高い自助力が不可欠となりました。また、免疫力アップにつながる食事作りなどスタッフの大きな力や、面会の制限へのシニアとご家族のご理解とご協力など、共助の必要性を痛感いたしました。さらに、行政によるサポート（マスクや消毒液や体温計そして情報等提供）という公助の有り難さを感じております。

同時に私自身は、昼は汗が、夜独りになると涙が出る日々です。そんな中、私の尊敬する泉社長の湘風舎より、ささやかな小冊子をだすことになりました。

- 例えば
- 《あ》挨拶で 築く素敵な 関係を
  - 《ゆ》指使い 目指せ脳の 活性化
  - 《み》身近から 一步一步に 処理しよう
  - 《の》のんびりと 何とかなるの 精神で
  - 《か》感謝する 気持ちノートで 忘れずに
  - 《い》言い訳を しないことから 自己成長



私のできていないことばかりなので、タイトルは『あいうえお、で綴る できたら良いな』です。坂本会長始め、歩みの会の素晴らしい方々等の知恵や愛を参考にさせて頂きました。人類の愛と知恵を持って、コロナも乗り越えられると信じております。



## 尖閣警備



窪島 弘道

最近、尖閣諸島で日本の巡視船と中国の海警局の舟が、日本の領域に侵入し領海を主張し始めている。領海とは海岸線より22.2km。この領海を巡ってお互いに押し合って一步も譲らない。残念ながら日本の巡視船は殆ど1000トン前後で外洋型の船は少ない。最近は大形化を進めているらしいが、中国の海警局の船には押され気味である。ただ、保安官は気力では負けていない気がする。

日本は事が起これば、安全保障条約でアメリカが何とかしてくれると思っている。他力本願的思考の気がする。

アメリカは自由の盟主だが、中国が台頭し侮れなくなってきたり、自国内にも問題を抱えている。自分の国は自分で守る心構えが大切になってきている。

中国は大国化して、海警局の船も大型化してきている。75mm砲も搭載しているという。また武器使用も許可されているらしい。日本の巡視船は20mm機関砲、しかも、いざという時には国の指示を待たねばならない。この状態では海上保安庁の隊員には気の毒な気がする。

一刻も早く、せめて巡視船だけでも大型化して尖閣の警備に当たる隊員に、安心して警備できる環境にして欲しいものである。

